

日本中世政治文化論の射程

山本隆志 編

▶ A 5判・344頁／定価 8,190円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1620-8

2012年5月刊行

筑波大学大学院にて24年間にわたり、中世東国社会史の諸問題に取り組んだ編者。その指導・学恩を受けた執筆者による、歴史学・思想史・民俗・生活史など、多岐にわたる研究成果を収録した論文集。

◎内容目次◎

はしがき

山本隆志

第Ⅰ部 政治制度と実効支配

武家政権と「唐船」―寺社造営料唐船から遣明船へ―

関 周一 (つくば国際大学等非常勤講師)

初期足利政権と北野社―御師職を中心に―

山田 雄司 (三重大学文学部教授)

戦国期における足利將軍家元服儀礼の政治的背景

浜口 誠至 (東京大学史料編纂所学術支援専門職員等)

沢観音寺所蔵「那須継凶次第」について

阿部 能久 (鎌倉市世界遺産登録推進担当学芸員)

前田家御寶塔

―上野国七日市藩の藩祖頭彰と幕藩領主の「大祖廟」―

井上 智勝 (埼玉大学教養学部准教授)

下野国黒羽藩主大関家における「御朱印箱」の保存措置について

新井 敦史 (大田原市黒羽芭蕉の館学芸員)

新田源氏言説の構造

―もう一人の猫絵の殿様・新田由良家を中心に―

山澤 学 (筑波大学人文社会系准教授)

第Ⅱ部 政治権力と地域社会

荘園年中行事論ノート

苅米 一志 (就実大学人文科学部教授)

鎌倉期武士社会における烏帽子親子関係

山野 龍太郎 (専修大学附属高等学校非常勤講師)

中近世転換期における地方修験の存在形態

佐々木 倫朗 (大正大学文学部准教授)

会津田島にみる戦国期城下町の形成と市・宗教

須賀 忠芳 (東洋大学国際地域学部准教授)

沼の生業の多様性と持続性

―江戸時代の下野国越名沼を対象に―

平野 哲也 (栃木県立文書館指導主事)

第Ⅲ部 民俗と宗教

宮座儀礼の歴史民俗学的比較研究の課題

藪部 寿樹 (山形県立米沢女子短期大学教授)

親鸞の来迎観と呪術観

―覚信尼における親鸞の信仰の受容を通して―

小山 聡子 (二松学舎大学文学部准教授)

『神道集』の歴史民俗

―「民俗的歴史」の世界―

佐藤 喜久一郎 (東京未来大学非常勤講師)

選択され、継承される生活用具の資料性

―離村時における当主の対応から―

門口実代 (三重県立博物館学芸員)

あとがき

須賀 忠芳

佐々木 倫朗

やまもと・たかし…1947年群馬県生。1971年東京教育大学文学部卒業。博士(文学)。群馬県高校教諭、上越教育大学講師、筑波大学助教授を経て筑波大学人文社会系教授。2012年定年退職(3月31日)。【主著】『荘園制の展開と地域社会』(刀水書房、1994)『新田義貞』(ミネルヴァ書房、2005)『東国における武士勢力の成立と展開』(思文閣出版、2012)

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本中世政治文化論の射程		本体7,800円(税別)	ISBN978-4-7842-1620-8
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				
					書店番線印

東国における武士勢力の成立と展開 東国武士論の再構築
 山本隆志著 思文閣史学叢書
 武士研究は社会経済史的な在地領主制論から国家史的職能論へと変化してきたが、それらをふまえた政治史的論究が求められている。本書では、東国武士を武士勢力としてとらえ、京・鎌倉での活動と連動しながら本領で法会・祭礼を主催するなかで政治的支配力を形成していることを、具体的に論じる。
 ▶A5判・384頁/定価6,825円 ISBN978-4-7842-1601-7

室町・戦国期研究を読みなおす
 中世後期研究会編
 若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来【内容】Ⅰ政治史を読みなおす【公武関係を読みなおす】松永和浩・桃崎有一郎【都鄙関係を読みなおす】山田徹・吉田賢司・平出真直・尾下成敏Ⅱ社会史を読みなおす 西島太郎・清水克行・三枝暁子Ⅲ経済史を読みなおす 早島大祐・高谷知佳Ⅳ宗教史を読みなおす 大田壮一郎・安藤弥
 ▶A5判・408頁/定価4,830円 ISBN978-4-7842-1371-9

戦国大名武田氏の権力構造
 丸島和洋著
 戦国大名はどのような伝達ルートを通じて家中の内外との意思の疎通を行ったのか？本書は甲斐武田氏を分析対象とし、家中を代表して他大名との外交を担った「取次」に着目。領国支配における意思伝達経路の検討と併せて、大名権力の中核を構成する家臣や、大名と家臣の関係について見つめ直し、戦国大名の権力構造を明らかにする。
 ▶A5判・432頁/定価8,925円 ISBN978-4-7842-1553-9

※戦国期東国の都市と権力
 市村高男著 思文閣史学叢書
 東国戦国史の雄である後北条氏に対決した下野の小山氏、下総の結城・山川氏、常陸の佐竹・多賀谷・土岐・岡見氏、武蔵の成田氏などの諸権力を分析、それとの関連で都市（城下町）の実態を追求。
 【内容】第一編 東国領主の権力構造/第二編 北条氏と東国領主/第三編 東国の戦国期城下町
 ▶A5判・580頁/定価11,340円 ISBN4-7842-0855-0

※統中世東国の支配構造
 佐藤博信著 思文閣史学叢書
 南北朝から戦国期における東国の権力構造の諸問題を多方面から明かした論考18篇を収める。関東足利・上杉両氏の動向を中心に、内乱、家臣団をめぐる諸相、都市・寺社論。さらには下総光福寺文書・鏖阿寺文書・常陸穴戸家文書・扇谷上杉朝良文書・上総大野家文書などの史料論にもおよぶ論議。
 ▶A5判・358頁/定価8,190円 ISBN4-7842-0916-6

室町期東国社会と寺社造営
 小森正明著 思文閣史学叢書
 鎌倉府体制下にあった室町期の東国社会に、寺社造営事業と寺社領経済が与えた影響を考察。「香取文書」など中世東国の「売券」の分析に基づく成果。【内容】第1章 寺社造営の推進主体と鎌倉府/第2章 寺社造営の経済的基盤と鎌倉府/第3章 寺社領における有徳人と売買・貸借/第4章 寺社領経済と蔵本の活動
 ▶A5判・356頁/定価7,350円 ISBN978-4-7842-1421-1

日本近世の宗教と社会
 菅野洋介著
 奥州と関東を主に、戦国期以降の仏教・神道・修験道・陰陽道等と地域社会とのかかわりを、東照宮や寛永寺を中心とした幕府権威をも視野にいれて考察。本所権威の在地社会への浸透、在地社会における諸宗教の共存と対抗、民衆宗教の展開とそれを規定する社会情勢、そして在地寺院など宗教施設の「場」としてのあり方を追求する。
 ▶A5判・380頁/定価8,190円 ISBN978-4-7842-1572-0

京都の都市共同体と権力
 仁木宏著 思文閣史学叢書
 中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見すえ、都市の本質を具体的に、理論的に分析した一書。
 ▶A5判・332頁/定価6,615円 ISBN978-4-7842-1518-8

織豊期主要人物居所集成
 藤井讓治編
 織豊期を生きた政治的主要人物(有力大名、有力武将、僧侶・文化人、公家、政権にかかわる女性達、総勢25名)の移りゆく居所の情報を編年でまとめた研究者・歴史愛好家必携の書！！辞書的な利用はもちろん、通覧すれば秀吉の天下統一の道程や戦国武将の動静、同時代人たちの交流を詳細に追える。
 ▶B5判・476頁/定価7,140円 ISBN978-4-7842-1579-9

戦国期権力佐竹氏の研究
 佐々木倫朗著
 戦国期佐竹氏の権力形成過程、一族衆や国衆等の活動、佐竹氏と地域社会との関わりや地域編成について、佐竹氏が発給した「知行充行状」・秋田藩家蔵文書等の史料を中心に考察することで、従来捨棄されがちであった戦国期の権力編成の姿を浮き彫りにする。
 ▶A5判・304頁/定価6,090円 ISBN978-4-7842-1569-0

※戦国期関東公方の研究
 阿部能久著 思文閣史学叢書
 関東公方の長である関東公方権力の戦国期から江戸期初頭にかけての諸問題の解明に取り組む。公方発給文書の様式変化にみる権力構造の実態、鶴岡八幡宮・鏖阿寺と禅宗・一向宗などの寺社勢力との関係、関東公方家の後裔である喜連川家の幕藩体制下の位置、さらに武家故実書『鎌倉年中行事』の成立背景を探る。
 ▶A5判・320頁/定価5,985円 ISBN4-7842-1285-X

中世東国の支配構造
 佐藤博信著 思文閣史学叢書
 鎌倉府の歴史的な性格を決定づけた武州河越合戦、鎌倉府体制下の相模守護のあり方、国人層とその関係、奉行人の軌跡、古河公方足利氏を生み出した東国の内乱=享徳の大乱の諸段階の検討など、室町・戦国期の政治過程を、更に鏖阿寺文書・正木文書・喜連川家文書・福田家文書などの関係史料を検討。
 ▶A5判・410頁/定価8,190円 ISBN4-7842-0554-3

江戸湾をめぐる中世
 佐藤博信著
 江戸湾西岸の問題の再検討と、江戸湾東岸の問題を取り上げ江戸湾を総合的に捉え、そこでの人と物の流れを時の権力者との絡みから再検討した11篇。多数の関係史料により、権力闘争を生み出す江戸湾における社会的な富とは一体何であったのかを考察し、当該地域において実際に活動していた氏族の存在とその歴史的な性格(専門職能)を解明。
 ▶A5判・270頁/定価5,880円 ISBN4-7842-1045-8

安房妙本寺日我一代記
 佐藤博信著
 これまで所蔵史料の未公開なこともあって十分な歴史的検討がなされてこなかった千葉県安房郡鋸南町にある日蓮宗寺院妙本寺。その歴代住職のなかで、戦国時代の一宗教者として際だった足跡を残した日我(永正5年~天正14年)の一代記を古文書や記録などの諸史料を用いて年代記(クロノロジー)風に記述し、日我の実像に迫る。
 ▶46判・212頁/定価3,150円 ISBN978-4-7842-1373-3

崇徳院怨霊の研究
 山田雄司著
 これまで日本史の方面からはほとんど研究されてこなかった崇徳院怨霊を時代背景の中で位置づけ、「いつ」「誰によって」「いかなる状況下で」語られるようになったのか、『保元物語』がいかにしてまとめ上げられていったのかを、文書・記録・物語の相互関係を細部にわたって検討することにより解明する。
 ▶A5判・314頁/定価6,300円 ISBN4-7842-1060-1

※武士と騎士 日欧比較中近世史の研究
 小島道裕編
 武士と騎士の比較は比較史の中ではポピュラーなテーマといえよう。しかし、日欧の研究者が、研究を持ち寄り突き合わせるといった機会は稀である。本書は人間文化研究機構連携研究「武士関係資料の総合化」の一環として、日仏で行われた国際シンポジウムの成果。具体的な資料に基づき、多様な側面から武士と騎士をとりあげた19論考。
 ▶A5判・512頁/定価9,450円 ISBN978-4-7842-1507-2

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
 電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。